

2017年
12月号

合鴨つうしん

庄内米左衛門グループ
水田トラストの会



大事な
お知らせ

18年産米予約表のご提出をお願いします！

今回の合鴨つうしんには「2018年産 水田トラスト米 予約希望表」を同封しています。トラスト米は自動継続になっていますので、予約する方、しない方も必要事項に記入の上、事務局までご返送をお願いします。

ご提出が確認できない方は、17年産米の予約実績と同じお届け回と数量でご予約を承らせていただきます。

予約表の控えは7月よりお届けします。届きましたら確認の上、保管をお願い致します。

・庄内の自然と歴史にふれる旅

10/7(土)~8(日)トラスト米のふるさと、庄内三川町の生産者を訪問する恒例の「庄内ふれあいの旅」が一泊二日で催されました。最初のイベントは、シベリアから飛来した白鳥の観察から。白鳥と言えば川や湖というイメージが一般的かもしれませんが、庄内では田んぼで会うことができます。鳥インフルエンザが流行った年に最上川で行っていた市民のエサやりが中止となり、白鳥自ら田んぼにエサをついばみに来るようになったと生産者の菅原孝明さんから解説がありました。



10月4日に飛来した白鳥は、来年2月頃にシベリアへと戻ります。

続いては収穫体験。例年であれば、収穫も終盤となっている時期でしたが、夏の天候不順により収穫が遅れ、多くの田んぼは黄金色の稲穂が頭を垂らしています。生産者の菅原壮一さんのつや姫の田んぼでコンバインに同乗させてもらい収穫を体験します。30アール(サッカーコート半分)もある田んぼはあっという間に刈り取られていきますが、昔は手作業と聞いて機械の凄さを一同実感しました。



手作業の頃は、1日で5アール分を刈って干せれば一人前と云われていたそうです。

夜は米左衛門の生産者の皆さんが揃い、交流の宴。一年ぶりの方や久しぶりの方だけでなく、初めての参加者も生産者と顔を合わせ話すことであっという間に打ち解けていきます。美味しい料理の数々に舌鼓を打ちながら交流を深めました。



翌日は生産者の菅原弘行さんのバスガイドによる庄内観光。月山ワイン山ぶどう研究所と本明寺に行きました。山ぶどう研究所では、特別に非公開のワイン貯蔵庫を見学します。旧



江戸時代に建てられた小さなお堂に本明海上人は安置されています。

道のトンネル跡を利用した貯蔵庫は温度・湿度がワインにとっても良い環境とのこと。月山ワインは、修験者や地元民が滋養強壮のために山ぶどうでどぶろくを作っていたのが始まりですが、今では国際コンクールで金賞を受賞するほどの味に仕上がっています。

続いては庄内に現存する中で最も古い即身仏が安置されている本明寺へ。孝明さんが先代住職と顔見知りだった縁から今回の訪問が実現しました。我々を出迎えてくれたのは現住職の大坂信快さん。孝明さんは「彼が5歳のころから知っているんだよ」とどこか嬉しそうな様子。お祓いを

してもらい、即身仏の本明海上人を参拝しました。

住職によると本明海上人は、米・大麦・小麦・小豆・大豆を断つ五穀断ち、さらに粟・ひえ・蕎麦・とうもろこし・きびを断つ十穀断ちの修行を念入りに行った結果、最古の即身仏として残っているのではないかとのこと。「この地域は飢饉もあったので、飢えに苦しむ人々を救いたいという想いがとても強かったのだでしょう」との言葉に敬意を感じずにはいられませんでした。

観光が終われば別れの時間。楽しい旅も終わりです。家族の様に温かく「お帰り！」と出迎えてくれた生産者の皆さんに感謝し、また来年も庄内に帰ってこられるように参加者一同で「行ってきます！」と別れました。今回のふれあいの旅は生産者と組合員の交流だけでなく、庄内の自然や歴史にふれることができた旅となりました。また来年も庄内ふれあいの旅は開催されます。皆様のご参加お待ちしております。

・つきたてのお餅は今年で最後！？

台風接近により雨模様の開催となった自然派くらぶまつりは、雨とは思えないほど多くの参加者がみられる盛況ぶりでした。

トラストブースで販売し、美味しいと大好評だったつきたてのお餅は「今年で最後の取り組みです！」と菅原弘行さんから発表がありました。生産者の皆さんも年々高齢化が進み、餅つきが負担になっているという理由もありますが、他の餅つき大会で食中毒が発生するという事例もあり、誠実な生産者は『食べた人が悲しむことがあってはならない』という想いから今年で最後の取り組みにしよう、と決断。自然派くらぶまつりの歴史に一区切りが付きましたが、弘行さんは「来年は新しいことを考えています。お楽しみに！」とやる気に満ちていました。



会員の皆様、また来年をお楽しみに！

1992年11月に開催された収穫祭の様子→この頃からつきたてのお餅は大人気でした。